


平成25年度 部長マニフェスト

教育次長 林 晴子

部の概要			
所属課と人員 (H25.4.1現在)	教育総務課 教育指導支援課 生涯学習課 国体推進担当 給食センター 公民館 くたち中央図書館	190人	

部の運営方針	
教育委員会の基本目標：学校教育、社会教育の連携の下、豊かな人間性や社会性を身につけた子どもを育成するため、文教都市「国立」にふさわしい学校教育の充実を図ります。また、社会教育を充実し、生涯を通じあらゆる場で学習できる生涯学習社会の実現を図ります。(平成20年12月22日国立市教育委員会決定)	
基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人権尊重の精神と社会性の育成 2. 生きる力をはぐむ学校教育の推進 3. 特色ある学校づくりの推進 4. 生涯学習の振興

平成25年度の重点項目			
項目	具体的内容	達成状況(年度末振り返り)	達成度
1 児童・生徒の学力向上及び体力向上を図る施策の推進	教員の授業力を高め、児童・生徒の学力・体力の向上を図ります。東京都の調査の分析結果から市立小・中学校児童・生徒の学力・体力の課題を明確にし、義務教育9年間の系統を重視した授業スタイルを構築します。その中核として、小・中学校合同授業研究会で年間45回の研究授業を実施します。これらの取組により、学力については、小学校は都調査の全体平均プラス3%を、昨年度に高水準となった中学校は現状維持を目指します。体力については、都調査の全体平均を上回った種目率の5%増を目指します。	小・中合同研究授業会では、9年間を通して問題解決力を高めることを目指した研究授業を年間42回実施しました。学力については、都調査において、小学校は全体平均プラス5.4%、中学校は同9.6%(前年度比プラス2.5%)と、いずれも大変良好な結果となりました。体力については、都調査の全体平均を上回った種目率はプラス2%ですが、全体平均と同じだった種目を加えての比較では、プラス5%となり、大きく向上しました。	B
2 特別支援教育体制を一層強化する関係機関とのネットワークの構築	就学前からの発達しょうがい児に対する支援の仕組みを整備し、特別支援教育を充実させるため、1学期に幼・保・小の校舎長会、2学期に幼・保と学校の主任クラスの教員等の連絡会を実施します。また、200人規模の教育フォーラムを実施し、発達しょうがい等への学校・家庭・地域の意識啓発と連携体制の整備を進めます。	1学期に、公立保育園を会場に生活指導主任会として、幼・保と学校の主任クラスを集めて就学前教育と義務教育の連絡会を実施し、連携強化を図りました。また、国のインクルーシブ教育システム構築モデル事業の指定を受け、これまでの特別支援教育体制を基盤として、発達障害児への合理的な配慮体制の整備をスタートさせました。その一環として、幼・保と小学校の校舎長会を兼ねて、教育フォーラムを実施し(参加者約150人)、啓発を進めました。	B
3 安全・安心な給食の提供	児童・生徒への安心・安全な給食の提供に努めます。特に、放射能対策として、外部検査機関による放射能検査を11か月毎月5検体実施し、また、独自の放射能検査を牛乳及び牛乳を除く提供食について毎日実施して、安全性の確認に努めるとともに、丁寧な食材洗浄を励行します。また、産地における農畜産物等の放射性物質の検査結果の情報収集に努め、食材の予定産地や放射能測定の結果について、月1回定期的に、また、随時に、保護者等に情報提供します。	外部検査機関による116回の測定と全給食実施日の午前中における飲用牛乳、小、中学校提供給食の喫食前の測定を実施し安全性の確認に努めました。微量の放射性物質が検出された食材は、使用を控え代替等により対応しました。また、保護者等に対し、使用食材の予定産地や放射能測定結果について、随時文書及びホームページにて情報提供を実施しました。予定産地(11回)、放射能測定結果(2月末現在13回)、ホームページ(毎日)	A
4 生涯学習施設の整備	安心・安全で快適な生涯学習の場を提供するための施設整備として、平成25年度中に、総合体育館耐震大規模改修工事実施設計、中央図書館耐震改修工事実施設計、芸術小ホール舞台照明及び音響機器改修事業、公民館トイレ改修事業等を行います。	次年度の総合体育館耐震大規模改修工事及び中央図書館耐震改修工事に向けて、実施設計を完了させました。また、芸術小ホールや公民館についても、施設整備事業を予定どおり実施し、利用者利便の向上に努めました。	A
5 スポーツ祭東京2013開催	昨年のプレ大会に続き、スポーツ祭東京2013本大会を成功させます。プレ大会に対し、観客数3割増を目指します。日本ウエイティング協会等の競技団体、商工会等の関係団体、その他市民ボランティアなどと連携しながら、街を挙げて気運を盛り上げるとともに、大会の円滑な実施に努めます。	競技団体、地域の関係団体、企業、市民等と連携しながら、イベントでのPR等により気運を醸成するとともに、大会を円滑に実施することができました。本大会の観客数数は、プレ大会の2,000人に対し7,100人で、大幅な増となりました。	B